

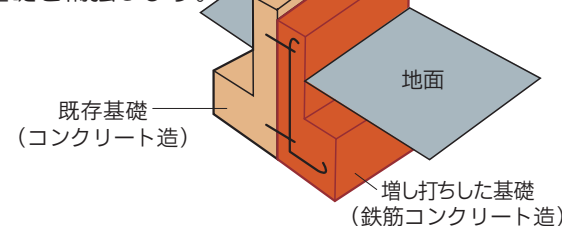
# 第3ステップ 《耐震改修工事》

■耐震改修の手法 ～様々な手法があります。状況にあわせて改修工法を選択しましょう～

一般木造住宅  
木造住宅

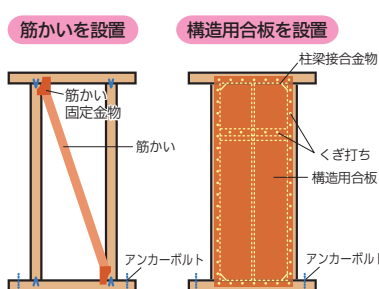
## ●基礎の補強

基礎を補強します。



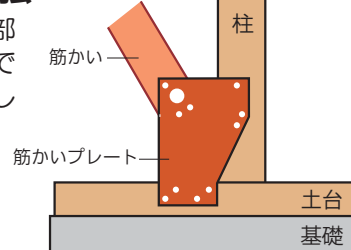
## ●壁の補強

筋かいや構造用合板を設置して耐力壁をバランスよく増やします。



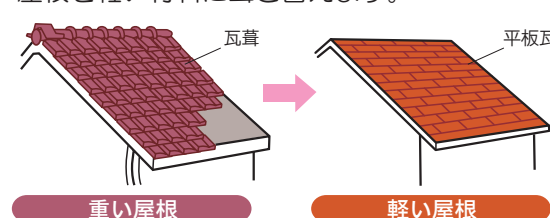
## ●接合部の補強

柱・はりの接合部を補強金物などでしっかりと固定します。



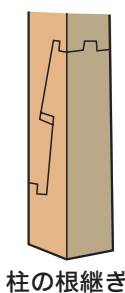
## ●屋根の軽量化

屋根を軽い材料に葺き替えます。



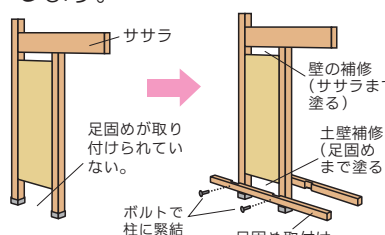
## ●腐朽部分等の補修・修復

柱・梁などの腐朽部分を補修します。



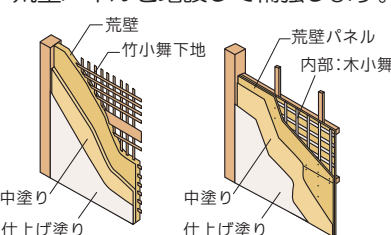
## ●柱脚部の補強

足固めなどで柱脚部を補強します。



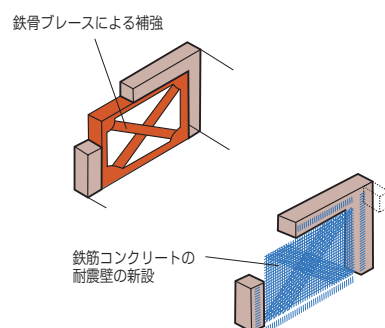
## ●壁の修復・増設

剥落した土壁を修復したり、荒壁パネルを増設して補強します。



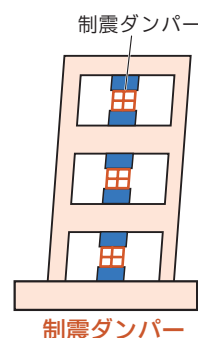
## ●耐震補強

耐震壁、ブレース、外付けフレーム、柱・梁の補強などにより耐力を向上させます。



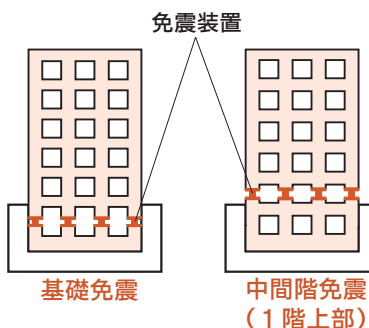
## ●制震補強

制震ダンパーなどの設置により、建築物にかかる地震力を軽減します。



## ●免震補強

免震装置を設置して、地盤から建築物に伝わる地震力を軽減します。



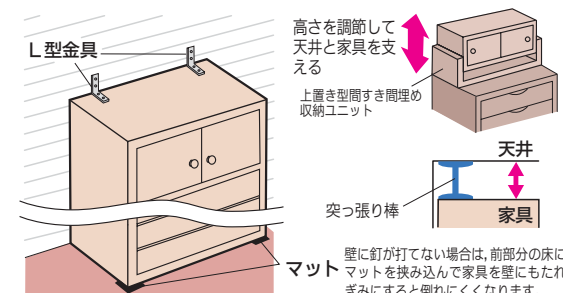
住宅  
木造以外の多数の者が利用する建築物  
特定建築物

# その他の地震対策について

## 家具の転倒防止

地震で家具が倒れると、下敷きとなってケガをしたり、逃げ道をふさがれてしまう可能性があります。

家具の配置を工夫したり、金具や突っ張り棒、すき間埋め収納ユニットなどで転倒しないような対策をしましょう。

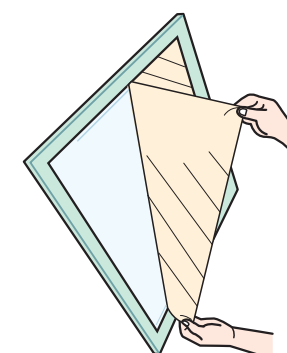


## 外壁・窓ガラスの落下防止

地震で建築物の外壁タイルが落下したり、窓ガラスが割れたりすると、室内にいる人や道路を歩いている人を傷つける可能性が高くなります。

劣化した外壁タイルの補修や、破損の危険性の高い窓※を割れにくいガラスに取り替えたり、ガラス面に飛散防止用フィルムを貼るなどの対策をしましょう。

※破損の危険性の高い窓とは、開閉できない窓、長く連続した窓、サッシが古くなった窓、腰壁が低い窓などです。

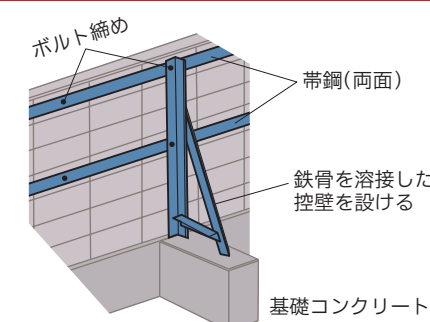


## ブロック塀の地震対策

地震でブロック塀が倒れると、道路を歩いている人が下敷きになって、死傷者が出る可能性があります。

日常的に風雨にさらされているブロック塀は、老朽化が進むと、倒壊しやすくなる恐れがあります。

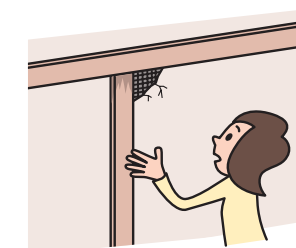
日頃から点検して、異常がある時には、転倒防止対策や補修を行いましょう。また、ブロック塀を撤去して生垣などに変更することも有効です。



## 補修などの日常的な維持管理

建築物の維持管理を日常的にきちんと行うことは、地震時の被害を軽減するとともに、思わぬ事故を防いだり、建築物の寿命を伸ばすことにつながります。

日頃から点検を怠らず、異常がある時は、早急に補修・改修をしておきましょう。



## ■京都市建築物耐震改修促進計画

京都市では、今後概ね10年間のうちに市内の住宅や建築物の耐震化を進め、京都市をより地震災害に強いまちとするため、平成19年度に「京都市建築物耐震改修促進計画」を策定しました。この計画では、市内の住宅や建築物の耐震化の現状を把握するとともに、平成27年度末の耐震化率90%以上を目指すべき指標として、耐震改修の促進に取り組むことを定めています。